

海外彙報

英國幼稚園の狀況（承前）

安井 てつ

此理由に依りて、チエルタナムの學校にて、二種の保姆養成所があります。即子供を保育する技術のみに長じて、保姆の下働となる者を養成すると、技術のみならず、保育の原理を了解する保姆を養成する所の二つありて、

甲は家内遊戯法、保育の大意、兒童衣服の裁縫思物取扱等技術的の事を教へ、一年間にて卒業で、乙は宗教、心理學、教育學、倫理學、生理衛生、動物、化學、幾何學、圖書、體操學の學科を教へて、七學期即二年と一學期學んで資格を得ます。

又女史の考によるときは、保育の目的も亦幼稚科及幼

稚學校と幼稚園とで違はねばならぬ。即幼稚學校に來る者は貧民の子供であつて、其多くは將來勞働社會に屬するのであるから、是等の者に向つて直接の利益となるのは

第一、目及手の練習である、例は紙を剪り、織紙をするにも正しく精密にするといふ習慣をつける事が必要である。

第二、是等の子供の父兄は教育もなく、家庭も亂れて居ります。故に遊戯とか、唱歌などで朋友相互に楽しみ、一致親愛の精神を養ふ事は必要である。

然るに幼稚園に來る子供等は、將來從事する所の仕事が進ぶ。即幼稚科に來る様な子供を支配するものになるのであるから、其方針が違つて來ねばならぬ。それで女史の幼稚園の眞の方針を説いて云ふに、

第一、知力、徳力を體力と併行して、今一層徐々に發達せしめ、各兒の心力發達に相當をせねばな

らぬ。即甲は甲の心力發達に應じ、乙は乙に應じた保育法でなければならぬ。

これを詳に云ふときは、

(1)子供は「或る者」である様にせねばならぬ。即甲の子供は甲たるべき特殊の品性を持つたものでなければならぬ。

(2)子供は「或る事」をして居らねばならぬ。例ば何か仕事をするには其者が或る事をして居らねばならぬ。子供の仕事は何か蒸溜の力に依りて機械が動く様なものではありませぬ。彼積木をするにも機械的にするにあらずして、子供の意志を用ひて机ならば机、門ならば門を造らうと云ふ考でやつて居るのでなければならぬ。

(3)子供は「或る物を知らねばならぬ」即袋に多くの物をつぎ込むが如くに智識を唯子供の腦中に注ぎ込まんとする事は大きな間違ひで、子供自ら知らうと思つて居るものを自ら求めて知

るものでなければならぬ。かゝる三の目的で一人々々の子供を一個人として發育をさせねばならぬ。

第二、知、情、意、の三がよく調和して發達する様に保育法を案出せねばならぬ。

例ば遊戯に付て申さば、其目的は固より、體育にありませぬが、其上に共に樂しむといふ一致和合の徳を養ふ事が出来る、唱歌も亦其通りで御座ります。

又智識の點から言へば、種々恩物を與ふる上に或は幼児の注意力を養ふとか、或は思想を適當に表出する力を養ふとか、夫々の目的に應じて、これを課さねばなりませぬ。

第三、は幼稚園に入る子供は實にあたゝかき善良なる空氣に觸るゝ感じがせねばならぬ。

幼稚園の保母は善人でなければならぬと云つた人があります通り、其處に來る子供は其人の愛

の感化で自然に楽しく、愉快な感情が起る様でなければならぬ。

第四、は子供をして團體の一部と云ふ考を持たせねばなりません。これは第一と衝突する様に思はれますが、能く考ふるときは、決してそうでは御座りません。即心力とか身體とかいふものは各兒銘々特別の發達を圖らねばなりません。共、他方に於て多くの友達と遊戯する間に自然其團體の一部と云ふ感情を養成し我儘を制すといふ習慣をつけねばならぬのです。

第五、は子供は想像力に富んで居るもの故に其有様に注意して。これを利用してねばならぬ。

例ば幼兒の畫く繪畫によりて、其心力活動の有様を知る事が出来た。又これを利用して種々の面白き遊びをする事が出来た。英國の幼兒は種々の話を所作にあらはして友達と共に演ずる事を面白がり。例ば一人は鳥となり、

人は子供となり、一人は鐵砲となりて、種々問答もし、所作もして遊ぶのです。保母たる者が絶えず子供の想像力活動の有様に注意し、これを利用する時は、保育上種々の面白い發明が出来ませう。

以上の如く仕事に堪へるものは、本當に保母の資格ある者で、心理學の智識は能く了解せられ、且生理衛生の思想もなければなりません。かゝる人は即世に所謂自稱保母なるものとはよほど保育上に目の着け處が違つて居る筈であるとは、ウエルトン女史の説で御座ります。概して英國の幼稚園は其教ゆる方法は兎もあれ、一般に智育に偏して居る様に思はれます。今幼稚園の一の組と小學校の一二年生とのする仕事を御覽に入れませう。

年齢	幼稚園
五歳乃至七歳	小學科一二年
授業時間	七歳乃至九歳
午前九時半より十二時半	九時より十二時十五分

課題

(1) 祈禱及聖書の話

(2) 數え方

(3) 讀み方

(4) 小中食 (パン又はビスケット及牛乳の類) 休息

(5) 遊戲、運動又は唱歌

(6) 書方又は畫方

(7) 庶物話又は地理上の話

(8) 諸種の恩物

(9) 退校前の唱歌

以上を比べますと、能く似て居る事に氣が付きませう。又故さらに連絡が付いてあるのです。併其差違の大體を申せば、

幼稚園の保育法は小學校の一年生よりは

(1) 祈禱及聖書の話

(2) 數へ方

(3) 讀み方、話方、文法、

(4) 歴史又は地理の話、又は詩歌讀誦、

(5) 小中食、休息、唱歌又は體操、

(6) 習字又は圖畫、

(7) 天然物、形體上に關する實物教授、

(8) 手藝、縫方、籠細工、粘土、及紙細工等

(9) 定庭の仕事(一時間)

一層具體的で、一層變化が多く、遊戲、手藝に多くの時間を與へ、各課業の時間短くて、二十五分以上に渡ること殆なし。幼稚園の子供の中には、「ピアノ」を習ひ、佛蘭西語を習ふものなどがありまして、我邦の様子とはよほどちがつて居りますが、私共の目には少し教へ過ぎる様に見えます。私は此疑問を度々園長などにしたことが御座りますが、幾分か教へぬと母親が不平なるゆゑ、餘儀なくするのだと云ふた人も御座りますが、其幼稚園の比較的に振はぬ事も亦家庭がよいのと、母親に教育もあり、又家庭教師のいゝのを幾何でも得らるゝ便宜があるのも其一原因であらうと存じます。餘り長くなりましたからこれで止めますが細い事の御質問はいつでも承ります。(おはり)